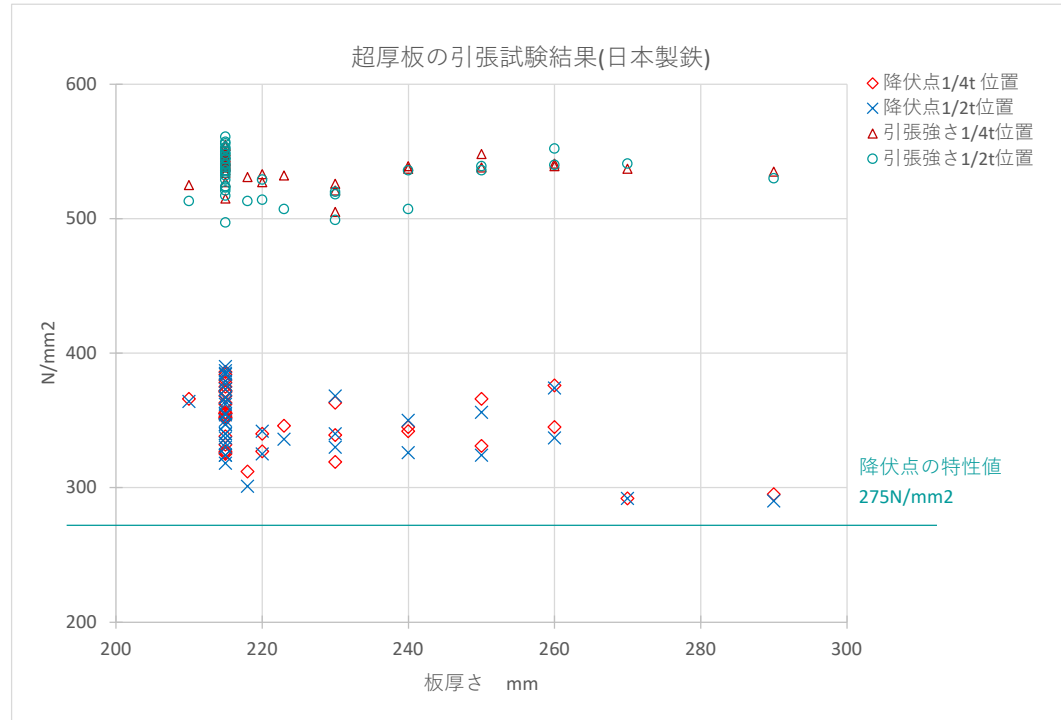
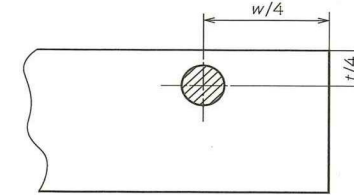


SM490材の降伏点の特性値及び部分安全係数の設定



JIS G0416

鋼及び鋼製品—機械試験用供試材及び
試験片の採取位置並びに調製



c) 丸形棒状試験片 $t \geq 25$ mm の場合^{b)}

- 注^{a)} 焼入焼戻し又は熱加工制御された鋼板に対して^{b)}を適用する場合、試験片の厚さは、製品厚さの片側半分の厚さとする。この場合の試験片厚さは、30 mm 以上である必要はない (A.6.1 参照)。
- ^{b)} A.6.1 によって、厚さ 20 mm 以上 25 mm 未満に丸形棒状試験片を適用してもよい。この場合の試験片の採取位置は、試験片の軸心が厚さの中心になるように採取する。

図 A.10—鋼板、鋼帯及び平鋼—引張試験片の採取位置 (A.6.1 参照)

| 厚さ位置 | 1/4t | 1/2t |
|----------------|-------|-------|
| 降伏点又は耐力の平均値：YP | 349.8 | 347.2 |
| 標準偏差(3σ) | 68.8 | 75.7 |
| σ a-3σ | 281.0 | 271.5 |

標準偏差／平均値 = 変動係数

| | 1/4t | 1/2t |
|------|-------|-------|
| 変動係数 | 0.066 | 0.073 |
| 抵抗係数 | 0.85 | 0.85 |

| 組合せ | ξ 1 | ξ 2 | φ | ξ 1・ξ 2・φ |
|-----|------|------|------|-----------|
| ①～⑨ | 0.90 | 1.00 | 0.85 | 0.765 |
| ⑩ | 0.90 | 1.00 | 0.95 | 0.855 |
| ⑪ | 1.00 | 1.00 | 0.95 | 0.950 |

ξ 1：調査・解析係数

ξ 2：部材・構造係数

φ：抵抗係数

※ SM490Aについて、鋼材厚さ200mm～290mmの試験結果では、100mmを超え200mm以下の材料強度と同等であることを確認した。よって、SM490Aの200mmを超え290mmまでの制限値は100mmを超え200mm以下と同等とする